

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300612	事業の開始年月日	平成16年2月1日
		指定年月日	平成16年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 友宝		
事業所名	グループホーム 友宝		
所在地	(〒 226 - 0023) 神奈川県横浜市緑区小山町292-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年9月25日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日本の在来工法で建てられた2階建ての建物は、神奈川県産の檜や杉の木がふんだんに使われていて、入居者様がほっとできる空間になっています。また建物は、雑木林や竹林に囲まれ遠くに富士山眼下には蛇行する恩田川と田園風景が眺められ自然豊かな環境に恵まれています。</p> <p>庭の畑は、1年を通して野菜が採れ、新鮮な野菜が食され入居者さんからは美味しいと評判です。</p> <p>ホームの生活は個人の思いや今までの暮らしがなるべく継続できるように努め、たとえばコロナ禍でも感染数が少ない時に子供や孫宅に外泊をする事もしました。天候によりできない時もありますが、出来る時は散歩にも出かけ、地元の馴染みの方や保育園の園児さんや老人会のゲートボールを見ながら歩き、遠目であいさつを交わす等、地域と交流が途切れないようにしています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年10月24日	評価機関 評価決定日	令和4年10月31日

【事業所の優れている点】

◇職員の資質向上に向けた研修体制

内部研修として感染症知識と対応実技、地域避難訓練への対応、虐待チェック自己点検、ケアプラン作成、理念の読み合わせ、外部研修として認知症、倫理・法令順守、接遇マナー、尊厳維持とプライバシー、リスクマネジメント等、様々なテーマに関する研修に職員が参加し資質向上を目指している。介護職員初任者研修を終了した職員がいる。

◇事業所通信、法人発行季刊紙を通じて家族に利用者情報提供

コロナ対応で面会制限がある中、毎月発行の事業所通信で利用者の日常生活状況や事業所の行事について写真やコメントで詳細に情報提供し、家族に安心してもらっている。法人発行の季刊紙で、事業計画、活動方針、感染症対策等の季節の注意事項、訪問看護の内容等、事業所の基本的考えや活動状況を家族をはじめ関係者に発信し理解を得ている。

【事業所が工夫している点】

◇コロナ禍における地域との交流継続

敷地内の畑や果樹の手入れ、維持の為に地域住民ボランティアが来所し、利用者は収穫を楽しんでいる。好天時には散歩をして地域住民と挨拶を交わし、地域との関係を維持している。地域の防災訓練に職員が参加し、災害時に消防団が協力する関係を作っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム友宝
ユニット名	そよかぜ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	◎	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	◎	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	◎	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	◎	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	◎	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	◎	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	◎	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも確認できるように相談室に掲示されている。おりにふれミーティングで話し合いをして実践につなげる様努めている。やすらぎと穏やかな環境で共同生活が出来る様見守り支援する事を心掛けている。全員周知とまで入っていない。	・「我が家、意思の尊重、地域、チームワーク、育ち合い、家族の安心」をキーワードとし、創業時に職員が参加して作成した。 ・事業所理念を各階に掲示し、ミーティングの際に基本に帰るようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	元々、建物の持ち主は地元の方、管理会社も地元です。日常は、地元の八百屋、歯科医院、お店等利用し、日々の散歩時に地元の方や、保育園、交番の方等と挨拶会話がある。	・自治会に加入している。コロナ対応で地域行事の機会はないが、利用者は散歩の機会に地域住民と挨拶を交わし、地域住民のボランティアが事業所内の畑や庭の手入れを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でこの2年、認知症キャラバンメイトの活動も途絶えていたが、徐々に地域包括支援センターと協力し、地域に向けたズームで見学会をし、認知症対応の方法などの紹介をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍なので、安全を取り、2か月に1回の書面介護で開催している。質問・アンケート用紙を同封し、返信をしてもらっている。陽性者が出て感染者は出さずにいるので、評価をいただき、励ましの言葉が届いている。	・家族代表、町内会会長、老人会会長、民生児童委員、地域包括職員、区職員を構成員とし、コロナ対応として書面方式で2か月毎に開催している。 ・様々な情報や意見等を返信用紙で受け、運営の参考にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居相談、生活保護の入居者の生活の仕方等について相談を受け改善を図っている。また、後見制度の活用についての相談をしている。	・諸手続き、相談、行政上の諸情報把握等、区職員と連携をしている。 ・市のグループホーム連絡会にWeb方式(コロナ対応)で年3~4回参加し、行政や他事業所との意見交換、研修を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は行わず入居者の行動も職員都合で拘束しない様努めている。研修を受け、ミーティングやカンファレンス等で話し合っている。年1回、自己点検できる機会も設け身体拘束をしないケアをしています。	・毎月の合同会議(理事長、管理者、ユニットリーダー等参加)で身体拘束適正化について検討し、職員に検討結果を周知している。 ・職員は年1回の自己点検を通じて身体拘束禁止の重要性を再確認している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送りや話し合いの中で入居者の虐待になっていないか注意を払い防止に努めている、自己点検を年に1回行っている。が一部、認識の薄い職員もいるので、不適切なケア防止の為に改善をしていく。	・毎月の合同会議で虐待防止について意見交換し、ケア実務に反映している。 ・職員は年1回の自己点検を通じて虐待防止の重要性を再確認している。不適切対応と感じた場合は職員間で注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会があり、実際に成年後見人制度を利用している入居者は、複数いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、見学・面接・契約時、そして、入居までの間に些細な事でも気軽に何回でも相談を受けられるような対応をしている。退去時においても、退去後ご本人やご家族が安心出来る様に説明対応をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い方法の改善、コロナ禍での面会方法等、利用者ご家族後見人からの要望を受け止め、運営に反映させている。	・コロナ対応で家族面会制限(人数、場所等)はあるが、家族や後見人の来所時に意見や要望を把握し、運営に反映している。 ・利用料の振込み方法変更等の改善事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、年1～2回職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。今年度は、職員の交流の提案があり、ユニット間の夜勤者同士の交流を行った。	・理事長面談(年1回)、管理者やユニットリーダーとの面談、諸会議を通じて職員の意見・要望を把握している。 ・夜勤時の1、2階職員間の緊急連絡用として、携帯呼び出しチャイムを導入した事例がある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の面談の機会を設け、職員の状況を把握しようと努め、各自が向上心を持って働ける様環境整備に努めている。処遇改善金や最低賃金等について丁寧な説明をしている。募集をしているが、職員の人員数は余裕がない状況が常時である。	・法人の就業規則に基づき運営している。 ・管理者、ユニットリーダーは職員の意向を常時把握しており、職員のワークライフバランスに配慮してシフト配置を組んでいる。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が、管理者も含め職員全員が事業所内外の何らかの研修を受ける機会を設けミーティング時に職員全員に報告や、ケアの実際について話しあうなどして育てる取組みをしている。	・内部研修、外部研修を数多く企画し、職員はこれ等に参加して自らの資質向上を目指している。 ・非常勤職員が介護職員初任者研修の資格を得た事例がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や職員は、地域包括支援センター、行政、横浜グループホーム連絡会、山下地域の同業者等と交流をし、研修(オンライン)、情報共有をして、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面会訪問等で聞き取りを行い、入居者の情報を前もって職員に周知している。入居から1週間は本人と職員のやり取りを細かく記録するなどして本人が困っていることや要望などを把握し関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階でご家族から、要望質問を伺い、また、入居の初期の段階でも、家族等が不安に思っている事、要望等を気軽に話してもらうような対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で本人家族ケアマネジャーと相談し、財政状況を踏まえながら、持ち込み品、寄付品、医療対応等を相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞おりや食後のテーブル片付け洗濯物たたみ等小さなことでも出来る事はお願いしたり一緒にしたりして支えあう関係づくりに努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話、FAX, メールにてホームでの生活状況や病状を報告相談し本人を支えていく関係づくりに努めている。入居者との会話の中で家族の情報があつた場合は、それを生かして家族関係がスムーズにいくよう支援をしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき友人の関係が途切れない様、面会、電話、手紙等で繋がれる支援に努めている。コロナ禍の今は、面会の制限があるが、感染者数が少ない時に面会を再開する、面会の内容等で判断する等、細かな対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応で自由な面会はできないが、電話、はがきを通じて友人・知人との関係を継続すべく支援している。利用者の馴染みの場所に車で案内している。 ・コロナ禍以前は地元のボランティア仲間が来所していた。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人見知りの方には職員が間にはいる等入居者同士の関係性を把握しリビング内のテーブル配置等の工夫、関わりあえるようにしている。入居者から他入居者の変化を職員に報告をしてくれることもあり、支えあえる関係性づくりが築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者のご家族から寄付品や毎年お米を送って下さる方もいる。また法人の会員や理事になって下さる方もおり、逆に支援を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	行動、言動、表情から今の思いを知るように日々のかかわりを行っている。困難になってきたときは、今の様子、これまでの様子等本人の視点に立って思いや意向の把握に努めている。	・入所時のアセスメント、家族の情報、利用者との日常会話を通じて思いや意向を把握し、食事内容をはじめ、日常生活に反映している。 ・表明が困難な利用者には思いを推定して意向確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、病院・前施設や家族・後見人等から情報提供をいただき、一人一人の生活歴や暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日の表情や健康状態を観察し、現状を把握しながら、共同生活の中でや、個人での暮らしが気持ちよく過ごせる様に、目配り気配りをして、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の関わりで得た情報や家族後見人等のご意見なども取り入れ、ミーティング等で話し合い、現状に応じた支援を行っている。カンファレンスを行いご本人の今の思い状況を把握しプランに反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のケアカンファレンスに可能な全職員が参加し、介護計画を見直している。 ・事前に医師、看護師、家族の意向を確認し、立案した介護計画について家族の承認を得ている。 	介護計画の各項目の実施結果について、複数職員が定期的（1週間、2週間毎等）に記録し、妥当性をより客観的に事実確認する体制構築が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員が個人記録に記入し情報共有するように努めケアプラン作成の基本としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	室内の清潔を保つ為・移送・車椅子などの修理等に理事の方の協力を頂いている。ホームの畑の野菜果物を収穫し、保育園園児さんに渡し交流を深める		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の保育園とお付き合いがあり、散歩時に合うと挨拶を交わしたりしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、週1回の訪問看護24時間対応で連携が取れている。電話に夜相談や緊急事態性もあり安心出来る。専門医などへは職員が付き添い通院している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全員が事業所協力医を主治医としている。 ・内科医の月2回訪問診療、看護師の毎週健康確認があり、24時間対応体制がある。 ・従来のかかりつけ医へは家族（緊急時は職員）が付き添っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の変化や気づきを看護師に伝え適切な指示を仰ぎ入居者の身体を第1に努めている。ちょっとしたことでも気軽に相談できる関係もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを病院に提供している。入院状況、退院について事前に病院より情報提供がある。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	都度、家族、医療、後見人、職員間で話し合いお互いに理解を確認しあっている。そのうえで事業所として方針を指し関係者ととともに支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した際の事業所方針を入所時に説明し、重度化した場合は医師、職員、家族が話し合っ適切に対応している。 ・管理者は看取りに際しての職員の心のケアを大切にしている。職員は看取り体験者からOJT等を通じて対応方法を学んでいる。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡の仕方をわかりやすく見やすい場所に提示している具体的な応急処置の実践は今後訓練等を行い身につける必要がある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練など、コロナ禍でも机上訓練をする等工夫して行っている。避難場所など全職員が理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は、夜間想定を含めて利用者が参加して実施している。 ・利用者と一緒にグルーホーム協会の防災安全動画を視聴した。目標達成の災害備蓄品点検を12月に予定している。年1回の自治会の防災訓練に参加している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時はノックしお名前を呼ぶ、顔を見ながら話をする、更衣中は入室しない等対応をしている。自覚なく発した言葉で傷つける事もあるかもしれないので、ひき続き研修や話し合いを重ねる事が求められる。	・管理者は、利用者の人格を尊重する取組みを継続している。 ・尊厳とプライバシー保護に関し、施設内外で研修を行い、特に忙しい時のスピーチロック等に注意している。また、ミーティングで声掛け方法などの対応を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はっきり自分の考えを話せる方は話し合いを行い、意思表示が出来ない方は、表情、しぐさから本人の思いや希望を推測し支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前には散歩を行い、活動を促す一方、室内で自身のペースで過ごす方も。個別の機能訓練も行っている方もいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事情により家族からの支援が受けられない方は、スタッフや近所の方等から寄付によりその人らしい装いが出来る様に支援している。月2回、希望に合わせて髪カットが出来る様に支援している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者からも食事が楽しみだと言う時があります。旬の食材、果物を取り入れた献立に気を付けている。嚥下状態や個々に合わせた食事形態を工夫し、その方の力を生かしながら食事を、又片づけをして頂いている	・食材購入、調理を事業所で行い利用者の好みや体調に合わせ要望に応えている。農家の頂き物を使用した献立に変更する機会もある。 ・利用者の準備や後片付けの手伝いが少なくなったがアイランドキッチンを囲んで参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本は自炊だが、行事食出前お弁当を提供している。食べる量の確認一人一人の状態を見、刻み食やおかゆの提供の支援をしている。水分が足りていない場合は、本人の好みや状況を見て、スポーツ飲料・ゼリーアイス等で摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの拒否のある方には、その方のペースに合わせ声掛けをしたり、ポリデントや口腔洗浄液も使用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人個々の排泄パターンを把握しタイミングを見てトイレ誘導をしている。	・排泄チェック表で利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導している。日中は17人がリハビリパンツを使用し、夜間は2人が布パンツを使用している。出来るだけ自立出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を朝夕の申し送りで確認。処方された下剤の服用を行っている。水分摂取を促し、食事にも根菜類や繊維質を取り入れるようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のタイミングに合わせた声掛けをしている。拒否される方は人を変え時間をずらすなど工夫している。入浴中はその方に合った話をしてリラックスし楽しんで頂ける様になっている。シャワー浴の方はかけ湯をして温まって頂く。	・週2回以上の個室入浴を目指し、体調や希望に合わせて、曜日や時間帯、順番、職員を変えるなど工夫している。座位の利用者はシャワーチェア浴を利用している。ゆず湯や菖蒲湯で気分転換や季節感を味わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣、その日の体調に合わせてゆっくり過ごしてもらえよう対応をしている。居室の温度や光にも配慮し安眠出来るようにしている。集団行動にとらわれず一人一人のペースを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は薬局の方と共に行っている。薬の処方ファイルで確認する。落葉防止で、カップに薬を入れ服薬していただいている方もいます。症状の変化には気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビの好きな方はスポーツや歌番組を観たり、散歩に行きたい方は外に出て歩いたりしている。コーヒーが好きな人は家族の協力で飲んで頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で制限がある為、通院時に景色の良い道を通ったり、外の風景を見て頂き、お話をすることで戸外の空気を楽しんで頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外出の制限あるが、通院時に景色の良いコースへ迂回するなど外気浴を楽しんでいる。 ・外出嫌いな利用者には、ドライブスルーにハンバーガーを買いに誘ったり、事業所内のミカン狩りや花を見に行こうなどの声掛けで対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で多様な制限がある中ですが、利用者の気分転換、健康保持を目的に外気浴や散歩等を継続することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くにあるお店に買い物に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を使ったりご自身の携帯を使って電話している。入居者さんが書かれた手紙を職員が投函している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段の壁に季節に合わせた絵画を飾ったりスタッフの手作りの絵を飾り、切り花を欠かさず飾っている。空調には、お一人お一人感じ方が違うので特に気を使って不快な思いがしないような環境づくりをしている。	・床暖房のリビング、廊下、階段等木調で落ち着ける環境である。 ・廊下や階段の壁、装飾棚に花や畑の収穫野菜、利用者の絵画、塗り絵、職員手づくりの掛け軸や絵、水墨画、折り紙等を飾り、生活感や季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観たり会話をしている方、廊下にあるベンチに座って会話をしている方もいる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意向を大切にしている。居室担当者を決め整理整頓をするよう心掛けている。	・居室は担当職員が清掃や整理・整頓、衣替え等をしている。居室の家具や調度品は使い慣れた物や好みのもを持ち込み、居心地の良い環境にしている。事業所は、介護用ベッド、エアコン、防災カーテンなどを提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ自分の洗濯物を畳むことが出来る様にしたり、食後の片付けなど出来る方はされています。便器の掃除も出来る方はしています。居室も間違えないように名前を目の高さで見える様に表示している。		

事業所名	グループホーム友宝
ユニット名	のどか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	◎	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		◎	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		◎	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		◎	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		◎	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		◎	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		◎	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	◎	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	◎	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	◎	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングの時間等を利用し、管理者と職員全員で理念を再確認、共有しあい、実践につなげている。相談室に、理念を掲げ常に見られるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	元々、建物の持ち主は地元の方、管理会社も地元です。日常は、地元の八百屋、歯科医院、お店等利用し、日々の散歩時に地元の方や、保育園、交番の方等と挨拶会話がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でこの2年、認知症キャラバンメイトの活動も途絶えていたが、徐々に地域包括支援センターと協力し、地域に向けたズームで見学会をし、認知症対応の方法などの紹介をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ禍なので、安全を取り、2か月に1回の書面介護で開催している。質問・アンケート用紙を同封し、返信をしてもらっている。陽性者が出て感染者は出さずにいるので、評価をいただき、励ましの言葉が届いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居相談、生活保護の入居者の生活の仕方等について相談を受け改善を図っている。また、後見制度の活用についての相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所の取り組みとして、ユニットで、年に1回以上は研修と、自己点検チェック表でチェックをしている。また、利用者が安全に過ごせる様に常に職員が見守り問題がある場合は話し合って改善する等、身体拘束等をしないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で虐待防止についての研修を開き、学ぶ機会がある。適切なケアについてミーティング時に話し合い、職員一人一人も虐待防止の意識は高められている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会はある。実際に成年後見人制度を利用している入居者は、複数いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、見学・面接・契約時、そして、入居までの間に些細な事でも気軽に何回でも相談を受けられるような対応をしている。退去時においても、退去後ご本人やご家族が安心出来る様に説明対応をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い方法の改善、コロナ禍での面会方法等、利用者ご家族後見人からの要望を受け止め、運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、年1～2回職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。今年度は、職員の交流の提案があり、ユニット間の夜勤者同士の交流を行った。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の面談の機会を設け、職員の状況を把握しようと努め、各自が向上心を持って働ける様環境整備に努めている。処遇改善金や最低賃金等について丁寧な説明をしている。募集をしているが、職員の人員数は余裕がない状況が常時である。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が、管理者も含め職員全員が事業所内外の何らかの研修を受ける機会を設けミーティング時に職員全員に報告や、ケアの実際について話しあうなどして育てる取組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や職員は、地域包括支援センター、行政、横浜グループホーム連絡会、山下地域の同業者等と交流をし、研修（オンライン）、情報共有をして、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面会訪問等で聞き取りを行い、入居者の情報を前もって職員に周知している。入居から1週間は本人と職員のやり取りを細かく記録するなどして本人が困っていることや要望などを把握し関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階でご家族から、要望質問を伺い、また、入居の初期の段階でも、家族等が不安に思っている事、要望等を気軽に話してもらうような対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で本人家族ケアマネジャーと相談し、財政状況を踏まえながら、持ち込み品、寄付品、医療対応等を相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人が、したいこと出来る所を他の入居者とも良い関係が持てるような事も考えて、支援をしている。例えば、洗濯物たたみや台所の手伝いを皆で気持ちよくできる様な支援をする等している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にともに散歩に出掛けて頂く、通院に同行していただく等して家族の絆を大切にしている。毎月の通信で家族に情報提供している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき友人の関係が途切れない様、面会、電話、手紙等で繋がれる支援に努めている。コロナ禍の今は、面会の制限があるが、感染者数が少ない時に面会を再開する、面会の内容等で判断する等、細かな対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を築ける様、一人一人が孤立しない様職員がフォローしている。散歩時の組み合わせ、ゲームや誕生日会の座席、入居者同士のいさかいが大きくなるような言葉かけ等、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者のご家族から寄付品や毎年お米を送って下さる方もいる。また法人の会員や理事になって下さる方もおり、逆に支援を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活で普段の何気ない会話から、はっきりと言える方は直接聞き、一人一人の希望や意向を聞き取るようにしている。困難な場合は、本人本位の立場で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、病院・前施設や家族・後見人等から情報提供をいただき、一人一人の生活歴や暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日の表情や健康状態を観察し、現状を把握しながら、共同生活の中でや、個人での暮らしが気持ちよく過ごせる様に、目配り気配りをして、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にカンファの時間を設け入居者の一人一人について職員全員で話し合い家族や関係者の意見も反映させ、常に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し気づきや変化などは業務日誌にも突起して情報を共有しあい介護計画の見直しに活かしている。ミーティング時に話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	室内の清潔を保つ為・移送・車椅子などの修理等に理事の方の協力を頂いている。ホームの畑の野菜果物を収穫し、保育園園児さんに渡し交流を深める		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会安心センターを利用している入居者がいる。お隣の保育園とのお付き合いがあり、散歩時に会えるとあいさつを交わしたりしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医、単発の皮膚科・整形外科の往診、必要に応じて外部の医療機関に受診する等医療との関係を築きながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時に、日常の関わりの中で気づいた内容を伝え、往診医につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や後見人と同行し、病院関係者との情報交換を丁寧に行っている。また、日常の様子や体調等状況を記入した資料を渡している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期においてはなるべく早い段階で家族の意向を伺い往診医に立ち会い、医師からの説明を聞いてもらって今後の方針を共有し、支援に取り組んでいる。状態の変化により、適時来ていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え緊急時のマニュアルを管理者が誰もが見やすい所に貼り慌てず速やかに行動できるように取り組んでいる。救命救急の研修、応急手当の対応を受けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年1回地域自治会の訓練に参加している。ホーム内の訓練については、コロナ禍でもあり、机上訓練になっているので、実施訓練の必要を感じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が理解できる言葉かけに注意し、人前での声掛けには、本人のプライバシーを損なわない言葉を心掛けている。全職員に行き渡せる為に引き続き研修等していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話に耳を傾けどうしたらよいか、一緒に考え助言をしている。そして、ミーティング時引継ぎ時に職員間で共有し対応している。漢字が書けるようになりたい、マックが食べたい、散歩に行かない等、傾聴し自分で決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の時間や入浴の時間等、入居者に相談を持ち掛け、納得の上で協力いただくこともある。入居者がその時でなければいけないことについては可能な限り一人一人のペースにあわせ、希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔クリーム、シャンプー等個人使用が必要な方は、個人のものを使い、衣類などは、ご家族に用意してもらおう。職員が代理で購入の場合はその人らしいものを意識して購入している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、落ち着いた雰囲気の中でテレビを消し、音楽を流す等している。食材購入、献立、調理はホームで行っているため、入居者の好みや体調に合わせる事が出来る。準備や片付けにも入居者のできる方に参加してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気を付け一人一人に合った食事や水分量、形状で提供している。また、箸ではなくスプーンを付ける等、その人に応じた支援をしている。散歩後や3時のお茶時にたっぷりお茶を注いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	磨き残しがある場合は職員が仕上げをする。やり方が分からない時はそばについて一つ一つ説明する等本人の力に応じた口腔ケアを行っている。月2回の歯科往診を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時で声掛け、トイレ誘導したり、失敗がなくても自身でリハビリパンツの交換ができるよう、居室に新しいリハビリパンツを置いている。出来るだけ自立出来る様に支援して一人一人の排泄パターンに合わせたケアをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリーブオイルやオリゴ糖を食事に取り入れたり、プルーン、フルーツ、野菜を取り入れ適切な水分量を提供したり、運動への働きかけ等、予防に工夫をし、取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯はある程度決まっているがその中でも順番を変えたりと一人一人の希望に合わせて入浴してもらい、限られた時間の中で工夫している。ゆず湯や菖蒲湯で気分転換も季節感を味わってもらおう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたい時は居室で休んでもらったり、夜間は居室の温度調節や、布団の種類も選び気持ちよく眠れるように支援している。布団を干し、寝具の洗濯を定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の説明書をファイルして職員がいつでも見られるようにしている。服薬前に職員によるWチェックで間違いのない様にして、手渡しで服薬してもらう。薬が変わったときには症状の変化等気を付け、主治医に連絡を取る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日付が知りたい方には、カレンダーを廊下に掲示、日記をつけたい方には、ノートを用意、台所仕事が生きがいの方には、台所の手伝い、朝から自室の拭き掃除をしている方には、雑巾の用意等している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出はマスクを着用したうえで近所の散歩くらいしか行けていない。買い物は、職員が代行でしている。毎月の専門の医療機関受診の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者は、希望に応じて欲しいものを購入したり、お金を使えるよう支援している。郵便局や通院という必要時の外出時の帰りに買い物をする事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたり手紙を書いたり出来る様支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に花や畑で採れた野菜や果物を飾る。季節感を取り入れた飾りつけをする、入居者が不快にならない様掃除をする等清潔に心掛けている。全体がバリアフリーで車椅子も安全である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったもの同士で過ごしたい時はリビングの長いソファに座ってもらい一人になりたい時は一人用のソファや自席でくつろいだり自由に過ごせる工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでの生活で使い慣れた物や好みのものを持ち込みなるべく今までと同じような環境で過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「洗面所」等場所が分かる張り紙をし、廊下は物を置かず車いすを一人で動かせる様にしている。歯磨きなども、自分で出来る様に歯磨きセットの置き方を工夫している。居室前には表札もかけ、自分の部屋が分かるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム友宝

作成日 令和4年9月25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時備蓄品の点検が出来る様にする	災害時備蓄品の点検を昨年に引き続き年1回する	年1回の点検の日程を計画書に明記（2022年12月12日）し、実行できるようにする	1年間
2	35	コロナ禍で昨年は防災訓練が机上訓練だったが、今年は、災害防災訓練を実施できるようにする	災害防災避難訓練を12月に開催する	11月合同会議で、実施日の設定をする	1年間
3	12	コロナ禍でもスタッフが安心して働ける環境づくりを継続して行う	感染症対策をしながら、スタッフのストレスの軽減を図る	スタッフの増員、夜勤が出来るスタッフの確保をする。	1年間
4	12	コロナ禍でもスタッフが安心して働ける環境づくりを継続して行う	感染症対策をしながら、スタッフのストレスの軽減を図る	スタッフ間の交流が出来る工夫をする	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。